

# 長畝ふるさと通信



【2021年7月号】

## ■ 暑い夏がやってきた！

今年の梅雨は昨年とは大違いで、平年よりも9日、昨年より18日も早く明けてしまいました。その間、しっかりと雨が降ったのは5日程度。梅雨明け後は連日30度の暑い日が続きました。



そのせいで苗の茎数は増え、草丈も異常に伸びて葉色が低下しています。葉色測定器SPADで測定すると30以下を示していたので、急遽後期養分補給のためコシヒカリと新之助に穂肥を散布しました。台風8号が接近する中、蒸し風呂状態の田んぼで背中に20kgの肥料を背負って100mの細いあぜ道を歩き回るのは結構しんどい仕事です。穂肥は10a当たり5～8kgを目安に散布したので、延べ4日かけて約200袋＝4トンを入力しました。汗びっしょり仕事です。





こしいぶきは例年並みに7月25日に収穫しました。コシヒカリもこのままいけば8月お盆前には収穫の見込みです。昨年のような日照不足は心配なさそうなので、粒張りの良いモチが付くことでしょう。期待しています。



WCS(稲発酵粗飼料)も順調に刈取が終了しました。好天で草丈が高かったので予定よりも多くのロールができました。これが「佐渡和牛」の餌となり、高級ブランド和牛が生まれるわけですが、ボクの口にはなかなか入ってきません…

## ■ 佐渡のフルーツも美味しい

佐渡の特産フルーツは「おけさ柿」(種がない渋柿でアルコール等で脱渋する)ですが、その他にもリンゴや梨、ブドウ等も栽培されています。夏には桃やネクタリン、スイカなどもお盆の時期に最盛期を迎えます。最近ではサクランボやイチジク、冬にはミカンも流通に乗るようになりました。



組合では育苗ハウスを利用して「シャインマスカット」の栽培を昨年からの試験的に始めています。昨年は日照不足のせいでうまく着果せずたったの3房しか収穫できませんでしたが、今年はたくさんの房が付いて順調に実りを進めています。今から収穫を楽しみにしています。

<桃の食べ方について>

1. 桃の割れ目に沿って包丁を回し、二つに割る。
2. くし形に切り分け、その時に種を取る
3. 最後に皮をむく

でも、一番おいしい食べ方は木で完熟した桃をさっと洗ってそのまま果汁を滴らせながらかぶりつく。これがBEST!



## ■ ミシガンから・・・

アメリカのミシガン大学の学生が、インタビューにきたいと連絡がありました。英検4級を落ちたボクの英語力が試される時が来たと思身構えていたが、本人は石川県出身の日本人母をもつバイリンガルでした。ボクより流暢な日本語で「生物多様性農業の取り組みやトキの認証米についてお聞きします」「佐渡のこれからの農業に



どのような展望をお持ちですか？」など事前の予習も完璧な才女でした。「佐渡はとっても良い処。もっと海外へアピールすべきです」と逆に喝を入れられる始末です。コロナ下でわざわざ2週間の隔離生活をしてまで日本に学びに来てくれた彼女に感服しました。

## ■ コロナにマケナイ！



6月に取り組んだ草刈りアートを再度、手直しをしました。7月25日の早朝6時から有志で汗だくになりながら土手の草を刈りこんで「コロナにマケナイ！」の文字を浮かび上がらせました。残念ながら草の薄い処は字がハッキリしませんが、気持ちはわかってもらえると思います。

東京2020オリンピックで連日、ビールを片手にテレビにかじりついて狂ったかのように喜怒哀楽を表していますが、その一方でコロナ第5波はどんどん拡大しています。実効力のない緊急事態宣言とワクチン頼みの政府に国民も辟易としていますね。今は無事にオリパラが閉幕し、各国の選手団が感染することなく自国へ帰ってくれることを願っています。7月末の状況を見ると帰省どころではないようで、今年も寂しいお盆になりそうです。

## ■ 令和3年産米もご愛顧ください

令和3年産米の年間予約案内を同封いたします。コメは小麦と比べて免疫力を高める効果が高いそうです。こんな時こそ自宅でしっかりとご飯を食べましょう。規則正しい食生活でコロナにマケナイ身体を作りましょう。

———— おかわりは自由です ————